

# 災害に強いまち・神戸

## — 震災30年の経験や教訓を未来につなぐ —

神戸市危機管理室

### 1. はじめに

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から30年を迎えました。この30年間、神戸市では、地域の皆さまと力を合わせて、災害に強いまちづくりを進めてきました。一方で、南海トラフ地震は今後30年以内に70～80%の確率で起こると言われており、大雨や台風などの風水害も年々激甚化・頻発化しています。

これからの災害に備えて、神戸市では防災対策に新たなテクノロジーを積極的に取り入れるなど災害対策の強化を進めています。

また、防災の専門家の間では「30年限界説」という言葉もあるように、災害の記憶は30年経つと継承が難しくなるとも言われていますが、阪神・淡路大震災を経験していない世代が増えてきている中、震災の経験や教訓を若い世代に伝えていく取り組みも行っていきます。

こうした神戸市の取り組みのうち、水道事業や防潮堤などのハード対策、ICT等を活用した新たな取り組み、さらに震災30年の事業についてご紹介します。

### 2. 災害時にも水を確保する

#### 地震に強い「大容量送水管」

水道の復旧まで最大で3カ月を要した阪神・淡路大震災を教訓に、従来からある六甲山中の2つの送水トンネルに加え、市街地の地下深くに高い耐震性と貯水機能を備えた「大容量送水管」を、震災後20年をかけて整備しました。仮に大きな地震で水道施設が破損するようないことがあっても150万人の市民の皆さんが12日間使う量の水（1人1日3リットル換算）を確保し、他の貯水施設とあわせて26日分の水を確保できるようにしています。

### 3. 1000年に1度の津波から人とまちを守る防潮堤

南海トラフ地震で想定される津波への対策として、神戸市では、1000年に1度の大規模な地震による津波（レベル2）を想定した対策を2023年3月に完了しました。レベル2では例えば神戸市中央区では最大3.9mの津波が想定されますが、防潮堤のかさ上げや補強などを進め、



メリケンパーク入口の防潮堤

人の住む区域には浸水しないと想定されるレベルにまで対策しています。

### 4. 災害情報を集約したポータルサイト「リアルタイム防災情報」

最新の防災情報（警報・注意報、地震・津波に関する情報、避難情報、避難所情報等）を一カ所にまとめて分かりやすくしたポータルサイト「神

戸市リアルタイム防災情報」を提供しています。天気情報や、交通機関・道路情報などの便利ナリンク集もあわせて掲載していますので、ネットで検索いただき、災害時はもちろん、普段の生活においてもぜひ活用ください。

## 5. 全国で初めて導入「帰宅困難者支援システム」

東日本大震災発生時に、首都圏では公共交通機関の運行停止により、自宅に帰れず駅などに多く

スマートフォンを使って簡単に申し込みができる帰宅困難者支援システム

# BE KOBE 震災30年を未来につなぐ

神戸市震災30年事業ロゴマーク

震災30年事業の一環として、防災・減災の取り組みや新たなテクノロジーに触れ、学び、体験できる、産学官連携の防災イベント、レジリエンスセッション

フォンなどでアクセスし、要配慮事項の有無など簡単な情報入力を行うことにより、条件に応じて自動で一時滞在施設を割り振り、迅速に一時滞在施設へ案内します。

## 6. 震災を知らない世代が未来へつなぐ

阪神・淡路大震災を経験していない市民が増えてきている中、若い世代に震災の経験や教訓を伝えていく取り組みも行っています。その一つが、公募で集まった10代・20代の実行委員が企画・運営する震災30年市民フォーラム「BE KOBE」：震災を知らない私たちが未来へつなぐ」です。若者たちの目線で、震災の経験・教訓を未来へ継承していくとともに災害への備えについて学び考えるプログラムを企画しており、2025年3月8日（土）に神戸朝日ホールで開催します。ぜひご来場ください。

## 7. 進化した防災テクノロジーに触れ、学び、体験する

「震災と未来のこうべ博（仮称）」も開催予定です。2025年4月26日（土）・27日（日）に、KITOやみななどのもり公園、ウォーターフロントエリアで開催しますので、「レジリエントな都市」神戸の現在の姿、未来に進化していく姿を体感してください。

近い将来起こると言われている南海トラフ地震では、広域で被害が発生し、支援物資がすぐに届かないと言われていきます。

企業の皆さまには、日中に災害が発生した場合に従業員が社内で避難、滞在できるように、水や食料、毛布など最低3日間分の備蓄をお願いします。また、事業の継続・早期復旧を可能とするために、BCP（事業継続計画）の策定と定期的な訓練や検証をお願いしたいと思います。

家庭では、最低でも3日分、できれば7日分の備蓄を推奨しています。水道や電気、ガスが止まった場合に備えて、水や食料、簡易トイレ、また常備薬やオムツなど、それぞれの家庭で必要なものを確認して準備しておくことが安心です。

災害はいつどこで発生するかわかりませんが、豊かな日常生活を安心して送っていただくために、読者の皆さまには、イザという時のために「災害を正しく恐れて」必要な備えをしておくことをお願いします。

## 8. おわりに